

1. 評価報告概要表

作成日平成19年 6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4075800336		
法人名	サンコーケアライフ株式会社		
事業所名	グループホーム えださか		
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市平 1492-1 (電話) 0948-42-3020		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成19年6月18日	評価確定日	平成19年7月5日

【情報提供票より】(19年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算	15.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険稲築病院・西野病院・田川慈恵病院・有吉歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に貢献したいという思いで、母体会社の寮を改装しグループホームとした。入居者第一主義を理念とし心にゆとりを持ち、尊敬の念をもって接することにより入居者がここに入居してよかった、長生きしてよかったと感ずることができるようなホームを目指し、全員が努力をしている。建物の周りは木々に囲まれ緑が多く、春にはツクシやワラビがたくさん生え、採取は毎年の恒例行事となり入居者は楽しみにされ、季節を感じることができる。関連施設で開催されるカラオケ大会や秋祭りに地域の人々とともに参加したり近隣中学校の職場体験を受け入れたりと、地域の人々との交流をはかっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善点は1.職員の食事が入居者と違うメニューであった2.看板の設置がなく道路よりホームに入り口が判りにくい3.玄関まわりが家庭的な雰囲気ではない4.外部研修内容が他職員へ伝わっていない等があげられた。全て改善されているわけではないが、全員で話し合いをおこない順次改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長および管理者・職員は自己評価の意義を理解し、全員で問題点を出し、話し合いを行い、改善策も検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、出席者は市の担当者・民生委員・家族代表・市議員・施設長・管理者・職員が出席している。ホームの現状報告や検討課題の対応報告などが行なわれ、要望や意見も積極的に取り入れるようにしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の意見は月に1~3回ほど面会に来られるので、主にその時に聞くようにしている。また、状況報告も合わせてその時に行なっている。また、3ヶ月に度、個別面談報告書に本人の身体の状況・今後の介護方針と注意事項を記入し、家族に報告を行なっている。また、この報告書に家族に捺印し返してもらうと同時に意見や要望を記入して頂き、要望等があれば会議にかけ検討するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>歌謡ショーや地域の運動会やカラオケ大会に参加したりまた地元中学校より職場体験としてホームに招いたり、地域の人々との交流をはかり入居者が地域住民とふれあうことにより安心して暮らせるよう支援している。ただ、場所的な理由より隣近所の人との交流が不十分であるが、ホーム開催のイベントなどの参加呼びかけ等は積極的に行なっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	心にゆとり、尊敬の念をもちやさしく入居者に接することで、ここに入居して良かった、長生きして良かったと感じることができるホームを目指し、理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は入居者第一を頭におきケアにあっている。ミーティング時はもとより管理者は常日頃職員に対して理念の実践を説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	系列の有料老人ホームで開催されるカラオケ大会や秋祭りに参加したり、近隣の中学校の職場体験の受け入れなど、地域との交流をはかっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関しては全員で検討している。外部評価に関してはその結果を踏まえ、全員で検討し改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、参加者は入居者家族・地域の人・市役所の担当者・市議員・民生委員等が参加し、ホームの現状や問題点等が報告され、参加者からの意見等ももらうようになっている。		

グループホーム えださか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は頻りに市役所の担当者のもとに足を運び、情報収集や相談にのってもらっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員はなんとなく理解しているが、説明を求められた時に的確に説明できる状態ではない。	○	権利擁護事業および成年後見制度について知識を持ち、問合せがあった場合いつでも誰でも支援できる体制が必要である。管理者のみでなく、職員全員が理解し問合せに対応できるよう、定期的に研修会の開催およびパンフレットの準備を行ってはいかがだろうか。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回ホームだより”あすなる”を発行し家族に送付している。また、個人ごとのアルバムを作成し、家族訪問時には閲覧してもらったりしている。また、3ヶ月に1度モニタリングを行い個別面談報告書を作成し家族に報告を行なっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別面談報告書にて状況報告をしているが、その中に意見や要望を記入してもらおうようにしている。意見要望が出た場合は職員全員で検討を行なっている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人の入職者に対しては他のスタッフが1週間程ついて介護にあたり、利用者に馴れてもらおうようにしている。異動は多いはずだが、引継ぎは確実にこなしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢での制限は行っていない。施設長や管理者が必ず面接するようにし、熱意や意気込みが感じられる人材を採用している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者第一を念頭におき、人生の先輩として教えてもらうという気持ちで接している。特に言葉使いには注意を払っている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内により、希望者は休みを利用し受講している状態である。特に系統だった研修計画が存在するわけではない。	○	その人の経験年数、認知症介護の理解や習熟度に応じた事業所としての計画が必要となる。外部研修・内部研修を問わず、その人の段階に応じた研修の計画を立て、受講することが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員であり定期的な勉強会や研修会に参加している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先よりいきなり入所というケースが多く、その場合家族より本人へ伝わっておらず、本人が入所され戸惑われスタッフも苦労する場合がある。	○	利用前に本人および家族に面会し、十分に話し合いを行い本人の納得と安心が得られてから利用開始することにより、その後のスムーズなサービス提供ができる。事前に家族・本人に面会し十分に説明および本人の納得を得てから利用に入るのが望ましい。また、すぐに利用となった場合も、しばらくの間は家族や関係者に来てもらうなどして安心してもらうなどの対応が必要ではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	スタッフは入居者第一という考え方で接しており、人生の先輩として尊敬をしている。一緒に座り込んでお話しを聞いたり語り合ったり何かと教えてもらうことも多い。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人と話しをし、どのようなことがしたいか、どのように暮らしたいか把握するようにしている。本人の表情や行動からも汲み取るようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	2ヶ月に1回全体会議、フロアー会議を開きモニタリングの結果や本人・家族の希望等を考慮に入れ、話し合い計画に反映するようにしている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行なっている。本人の状況及び希望をふまえ、会議を開催しスタッフの意見も盛り込んでいく。状態変化があれば随時見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診の送迎や、外出支援を行なっている。また系列施設でのリハビリテーションの支援なども行なっている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関に受診してもらっているが、希望があれば、以前よりのかかりつけ医に受診してもらっている。受診時は送迎の支援を行なっている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に協力医療機関や主治医との連携をとり相談にのってもらっている。利用者の状況報告は2週間に1度行なっている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃より言葉使い・言葉かけには細心の注意をはらっている。職員の不適切な言動が見受けられる場合は施設長より管理者を通して本人へ注意がある。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ柔軟に対応している。レクリエーション等の参加は本人の体調や希望により決定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じテーブルで食事をとり、さりげなくサポートしている。食事の準備や片付けなどできる人には手伝ってもらっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯および入浴時間は特に制限はしていない、入居者の状態を見てシャワー浴や清拭に切り替えていたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	塗り絵・習字・貼紙作り・カレンダー作り等、入居者一人ひとりの得意ごとを見つけ取組んでもらうよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のストアへの買い物や、天気の良い日には散歩に出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉・玄関・居室は鍵はかけておらず、職員が見守りを行い、入居者の自由な生活を支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、夜間の場合も想定して行なっている。近隣の協力体制については、母体企業の社員アパートが隣にあり、災害時の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は一人一人チェック表に記入し管理されているが栄養バランスについては栄養士などのチェックがとられていない。	○	以前からの献立を参考にして献立が立てられているが、知らぬ間に内容が変わっているケースが考えられる。カロリーの過不足や栄養の偏りを見てもらうため、定期的に専門家よりチェックしてもらうことが望まれる。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には普段家庭で使われているような収納ケースや木製の調度、季節の花が配置されていたり、利用者が作成した飾りものが貼られたりしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度、自分で作成した飾りなどが壁に貼られ、利用者が思いのまま居心地よく過ごせるよう配慮されている。		